

JobCenter

R14.2

<拡張カスタムジョブ部品利用の手引き>

-
- Windows, Windows Vista および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - UNIX は、The Open Groupが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
 - Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。
 - HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。
 - AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
 - Linux は、Linus Torvalds氏の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
 - Oracle Linux, Oracle Clusterware および Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
 - Red Hat は、Red Hat,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - SUSE は、Novell,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - NQS は、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
 - Microsoft Excel 及び Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - SAP ERP, SAP NetWeaver BW および ABAP は、SAP AG の商標または登録商標です。
 - Amazon Web Services は、Amazon Web Services, Inc. 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
 - その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、R、TM、cの記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取りください。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談ください。





はじめに

本書は、カスタムジョブ部品の利用方法について説明しています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1. 凡例

本書内での凡例を紹介します。

		気をつけて読んでいただきたい内容です。
		本文中の補足説明
注		本文中につけた注の説明
—		UNIX版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

2. 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、JobCenter 製品サイトのダウンロードのページを参照してください。

<http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html>

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenterを新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めてJobCenterをお使いになる方を対象に、JobCenterの基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenterの基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenterを利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS機能利用の手引き	JobCenterの基盤であるNQSの機能をJobCenterから利用する方法について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Winからの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUIと同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenterで用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムでJobCenterを操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter Helper機能利用の手引き	Excelを用いたJobCenterの効率的な運用をサポートするJobCenter Definition Helper (定義情報のメンテナンス)、JobCenter Report Helper (帳票作成)、JobCenter Analysis Helper (性能分析)の3つの機能について説明しています。
JobCenter SAP機能利用の手引き	JobCenterをSAPと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter WebOTX Batch Server連携機能利用の手引き	JobCenterをWebOTX Batch Serverと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter Web機能利用の手引き	Webブラウザ上でジョブ監視を行うことができるJobCenter CL/Webについて説明しています。
JobCenter テキスト定義機能の利用手引き	ジョブネットワークやスケジュール、カレンダー、カスタムジョブテンプレートを、テキストファイルを使って定義する方法を説明しています。
JobCenter クラスタ環境でのバージョンアップ・パッチ適用ガイド	クラスタ環境で運用しているJobCenterのアップデート、パッチ適用手順を説明しています。

JobCenter 拡張カスタムジョブ部品利用の手引き	拡張カスタムジョブとして提供される各部品の利用方法について説明しています。
JobCenter R14.2 リリースメモ	バージョン固有の情報を記載しています。

3. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2016/02/01	新規作成	－	第1版
2	2016/06/10	版改訂	－	R14.2.1リリースに伴い版改訂

目次

はじめに	iii
1. 凡例	iv
2. 関連マニュアル	v
3. 改版履歴	vii
1. 概要	1
1.1. 適用方法	2
1.2. 共通仕様	3
1.2.1. 投入キュー	3
1.2.2. カスタマイズ	3
1.2.3. 暗号化パラメータ設定	3
1.2.4. 表示アイコン	3
2. メール送信部品	4
2.1. メール送信部品	5
2.1.1. 部品情報	5
2.1.2. スクリプト	5
2.1.3. カスタムパラメータ設定	5
2.1.4. 実行結果	6
2.1.5. 主要メッセージ	6
2.1.6. 注意事項	6

第1章 概要

本章では拡張カスタムジョブ部品について説明します。

拡張カスタムジョブは、部品の種別毎にJPFファイルとして提供され、ファイルをアップロードすることで利用することができます。

アップロードした部品はマネージャフレーム中のカスタムジョブ定義一覧で参照することができます。種別毎にグループ化され、Systemグループ配下に格納されます。

JobCenter環境への適用方法は、[「1.1 適用方法」](#)および<基本操作ガイド>の11章「アップロード・ダウンロード機能」を参照してください。また、カスタムジョブ定義の利用方法については<基本操作ガイド>の5章「カスタムジョブの利用方法」を参照してください。

本手引きでは各部品の利用方法について説明します。

1.1. 適用方法

1. 拡張カスタムジョブのJPFファイルを、CL/Winがインストールされたマシンの任意の場所にコピーします。



拡張カスタムジョブのJPFファイルはJobCenterメディアに同梱されています。また最新JPFファイルはJobCenter 製品サイトのダウンロードページから入手することができます。

JobCenterメディア同梱のJPFファイルの格納場所は、JobCenterメディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

2. CL/WinからJobCenter管理者ユーザで対象サーバへログインします。 [ファイル]-[Helper機能]-[アップロード]を選択します。
3. 「アップロード対象のユーザの指定」画面でJobCenter管理者ユーザを選択します。
4. (1)でコピーしたJPFファイルを選択して「アップロード」を行います。
5. CL/Winのマネージャフレームで、カスタムジョブ定義一覧を表示して、Systemグループ配下に拡張カスタムジョブの定義が登録されていることを確認して下さい。

1.2. 共通仕様

1.2.1. 投入キュー

拡張カスタムジョブ部品はパイプキューに投入することもできますが、カスタムキュー属性を持つバッチキューで実行する必要があります。カスタムキュー属性を持たないバッチキューに投入した場合には、正常に動作しません。

1.2.2. カスタマイズ

Systemグループ配下の部品については製造元から配布された部品であり、スクリプト、パラメータの変更ができません。変更する場合にはUserグループ配下に定義をコピーしてからご利用ください。

1.2.3. 暗号化パラメータ設定

拡張カスタムジョブ部品ではカスタムパラメータの設定時に、JobCenterに登録したパラメータへの展開を指定する事ができます。

JobCenterへ登録したパラメータは、JobCenter内部では暗号化して保存し、カスタムパラメータの展開も実行時に行うため、パスワードなどの秘匿情報の設定はこの暗号化パラメータの利用を推奨いたします。暗号化パラメータの設定方法については、<コマンドリファレンス>の「3.28 paramctrl 暗号化DBへのパラメータ登録」を参照してください。

なお、暗号化パラメータの登録は、拡張カスタムジョブ部品を配置したジョブネットワークフローを持つサイトで行ってください。

1.2.4. 表示アイコン

拡張カスタムジョブの表示アイコンは、「[1.1 適用方法](#)」の「アップロード」操作により、対象サーバに配置されます。

追加された表示アイコンは、CL/WinおよびCL/Webによる対象サーバへの次のログイン時から反映されます。

第2章 メール送信部品

メール送信部品について説明します。

2.1. メール送信部品

2.1.1. 部品情報

■格納パス

/Root/System/Tools/Mail

■定義名

send_mail

■表示アイコン



2.1.2. スクリプト

メール本文として記載したい内容を記述します。

カスタムジョブパラメータでfile_includeを設定している場合、{{{file_include}}}を記述することで内容が展開されます。

また、環境変数についてもメール本文中に展開することができます。利用する場合は{{#getenv}}環境変数名{/getenv}}と記述してください。



{{{file_include}}} で展開する標準出力・標準エラー出力が巨大なサイズになっている場合、SMTPサーバに設定されているメッセージサイズの上限を超える場合があります。

巨大な標準出力・標準エラー出力データの出力は、CL/Winでのトラック表示時に時間がかかる等の影響もあるため、単位ジョブスクリプト内で他のファイルに(アプリケーションやコマンドのログとして)リダイレクトするなどして巨大な出力とならないようご注意ください。

2.1.3. カスタムパラメータ設定

必須	変数	説明	設定例
	file_include	JNWの同一階層にある他の部品の標準出力、標準エラー出力をメールに取り込んで送信する場合に使用します。スクリプトに{{{file_include}}}と記載することで内容が展開されます。ジョブ名.oで標準出力、ジョブ名.eで標準エラー出力を読み込みます。	JOB1.o 処理1.e
	mail_bcc	BCCとして送信アドレスを指定します。複数指定する場合は,(カンマ)区切りで指定します。	admin@mail.local user1@mail.local, user2@mail.local
	mail_cc	CCとして送信アドレスを指定します。複数指定する場合は,(カンマ)区切りで指定します。	admin@mail.local user1@mail.local, user2@mail.local
○	mail_from	Fromアドレスを指定します。	admin@mail.local
	mail_passwd	SMTPサーバに認証が必要な場合のパスワードを指定します。暗号化DBの内容を参照する場合は,\$変数名\$を指定します。	PASS \$USER_PASSWD\$

	mail_port	SMTPサーバのポート番号を指定します。空欄の場合は25を使用します。	25 465
○	mail_server	SMTPサーバ名を指定します。	smtp.server.local 127.0.0.1
○	mail_subject	メールの件名を指定します。	テスト 処理結果通知
○	mail_to	TOとして送信アドレスを指定します。複数指定する場合は,(カンマ)区切りで指定します。	admin@mail.local user1@mail.local, user2@mail.local
	mail_user	SMTPサーバに認証が必要な場合のユーザ名を指定します。暗号化DBの内容を参照する場合は、\$変数名\$を指定します。	USER \$USER_NAME\$
	ssl_enable	SMTPサーバとの通信にSSLによる暗号化が必要な場合はtrueを指定します。空欄またはtrue以外を指定した場合はfalseとして扱います。なお対応しているプロトコルはSMTPsになります。STARTTLSには対応していません。	true false

2.1.4. 実行結果

メール本文として送信した内容が出力結果に表示されます。異常が発生した場合もエラーメッセージが出力結果に表示されます。

2.1.5. 主要メッセージ

メッセージ	内容
parameter [mail_XXX] is required.	必須パラメータが指定されていない場合に出力されます。
XXX: Not number	ポート番号の指定で数字以外を指定した場合に出力されます。
XXX: No such file or directory	file_includeの指定でファイルを読み込むことができなかった場合に出力されます。
host or service not provided, or not known	メールサーバの指定が間違っている場合に出力されます。
connection refused	メールサーバの指定が間違っている、もしくはポート番号の指定が間違っている場合に出力されます。
timeout	メールサーバの指定が間違っている、もしくはメールサーバが応答しない場合に出力されます。
wrong version number	ssl_enableの指定で、設定が不要なメールサーバに対して設定した場合に出力されることがあります。

2.1.6. 注意事項

- アップロードした部品(System配下にある部品)は、スクリプト(メール本文)を編集することができません。User配下に必要となる定型文の数だけコピーした後、スクリプト編集してご利用ください。
- SMTP認証ではplainとloginのみをサポートしています。

